



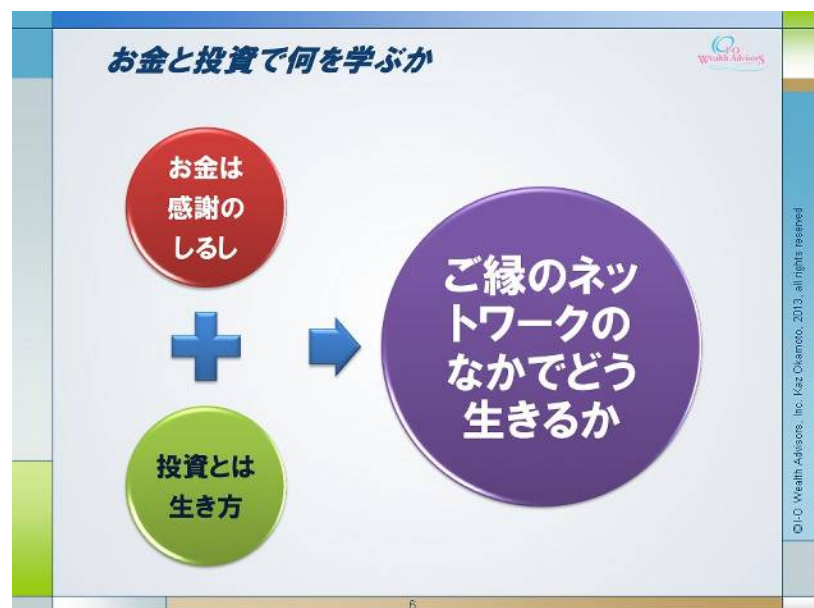
I-OWA マンスリー・セミナー・夏休み特別企画 「大人と子供のためのマネー教室」講演より

子どもへの金銭教育を考える

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

中学や高校で、出張授業を通じて子ども達に金銭教育をしていく中で気付いたことは、子ども達は「お金は汚い」、「お金持ちは悪い人」というイメージを持っている子が多いということです。私の前職であるアメリカの年金運用会社のトップは、「我々は世の中にとっていいことをすることで、我々のビジネスは上手くいく」と、いつも言っていました。皆にとっていいことをすることで、結果、我々の所に報酬としてお金がくるわけです。

お金に対するイメージをきちんと作り直していかなければならないと強く感じています。一番大切なことは、「子どもだからわからないだろう」と考えないことです。金銭教育は、基本的に家庭でやるものであり、学校はある意味、金銭と最も縁遠い所にあります。家の中は、お金の重要性が非常に大きな場所です。その中で、出来る範囲で子ども達に情報公開をして、如何にお金と生活の関係を考えさせていくかが大切でしょう。



例えば、子ども達が「あれも欲しい。これも欲しい」と言った場合、予算というものがあるということを知ってあげることが効果的でしょう。とにかく子どもとのコミュニケーションは大切です。高校生でもどうしてATMからお金が出てくるのかわからない子が多いのです。ATMはただ単にお金が出る機械ではなく、その後ろに働いている保護者がいることを、大人がお金を引き出す時に一言伝えることが大切です。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

子ども達に金銭教育をするのに早すぎることはありません。そのためにも、保護者自身がお金に対するイメージをしっかり持つことが大切です。経済・お金(金融)、投資などは生きていく上での必須科目であり、絶対必要なことなのに家庭でも教えない。学校でも教えない。これはおかしいことですね。お金に対してポジティブに向き合い、幼い頃からきちんと考えさせることは、非常に重要なことです。

経済学もその基本はとても我々に関係が深いのです。経済学の一番の基本テーマは希少性。人間は常に欲望を持っています。その欲望は人間が作れる生産力を上回っています。当然トレードオフが必要になってきます。一方を選択した場合一方を諦めなければならない。諦める結果、機会費用が発生します。同時に、生産性を如何に増やしていくのかが重要です。技術革新もありますが、同時に分業や国際協力も効果的です。だからみんな仲良く平和な世界を創ることが豊かさを生むのです。また、希少性が教えてくれることには、知足(足るを知る)もあります。際限なく自分だけが欲望を満たそうとするのではなくみんなが幸せになれるような心遣いをする。

トレードオフ、機会費用は自己責任です。自分で選んだことで機会費用が発生したらそれを受け入れる。そして、分業や国際協力は、人と仲良くしないと分業はできないし、平和でないと、国際協力はできません。このような基本的なところが、経済学を学ぶ上で非常に重要なポイントですし、家庭でも教えていきたいところです。

お金は感謝のしるしです。我々はお金が築くご縁のネットワークのなかで生きています。そのネットワークという血管の中をお金と感謝が手に手を取って廻っているのです。皆が助け合い、つながりあっていく絆の中で我々は生きています。投資とは時間の使い方であり、それはそのまま生き方です。今、我慢して、将来に向けて喜びを大きくしていく。それはつまり、ご縁のネットワークの中で人生をどう生きるかということにつながっています。

このあと講演では、ピギーちゃんのハッピー・マネー[®]四分法、よりよい世の中をつくるための金遣いの王道についての解説や、今の時代の「いのちよし、地球よし、未来よし」という「新三方よし」などについてお話しがありました。

また保護者にとって、悩ましいお小遣いの考え方について、ジュニア NISA をマネー教育の機会として捉えることなど、示唆に富んだお話をいただきました。最後に最良の教育とは、その子の人生最後の日に子どもが「いい人生だったな」と思えるようにすること。金遣いの王道とは、感謝されてお金を稼ぎ、世の中をよくするためにお金を使い、皆を喜ばせ笑顔を増やしていくことであると結ばれました。